



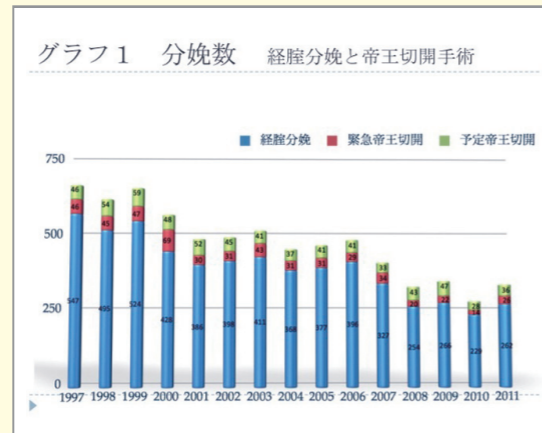
24時間365日 安心・安全なお産と 婦人科医療のために

地域の産婦人科医療を 支えます

現在、当科には常勤産婦人科医師が4名在籍しています。産科は夜間と休日において、当直と自宅拘束体制の2名を365日、24時間体制で確保、維持する必要があります。当院は、4名で担っていますが、来年度は新たに1名専攻医を受け入れる予定です。

当科が目指している分娩数は年間500件です。産婦人科学会の指標でも医師ひとりあたり100件が目安になっていますので、この点からも医師5人以上が妥当であると考えられます。助産師数についても35件あたりひとりの助産師が望ましいとされていますが、500件の分娩には助産師が15人以上必要となります。当科の助産師は10人から12人を推移しています。安定して助産師を確保するため、看護学生や看護師の中で助産師に興味をもつ方と関わりを持ち、助産師になる道を援助しています。今年度は1名の新人、来年は4名の新人助産師を確保できる予定です。より充実した体制で、地域の産婦人科医療を支えていきます。

当院の産科の分娩数ですが、平成23年は330件でした。グラフ1の様に2008年から低

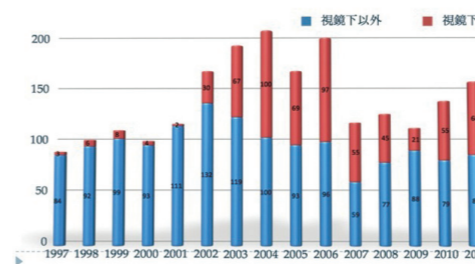


水準となっています。これは2008年より医師数が減少したことが大きく関連しています。2011年より3人体制、2012年より4人体制となり医師数は増えましたが、分娩数が増えていません。一旦、医師数を理由に分娩を制限すると、回復が難しく、時間を要することと考えています。2015年に開院予定の新病院になるまでに年間500件に回復したいと願っています。

手術は低侵襲手術を第一に

一方、婦人科手術は、グラフ2の様に医師数により減少した件数が徐々に回復し、今年度は過去のレベルまで回復する予定です。ひとえに近隣医療機関の先生方から紹介していただけたことが、結果に現れたと考えています。当科の手術は、低侵襲手術を第一とし、まずは視鏡下手術の可能性を検討します。約半数は視鏡下手術が可能となっています。開腹する場合も、切開創を極力小さくすること閉腹は真皮縫

グラフ2 手術数 婦人科手術と視鏡下手術



合を行うなど美容面を配慮しています。

症例を提示します。図1は、粘膜下筋腫です。子宮鏡下手術で切除できます。図2や図3は、漿膜下筋腫や筋層内筋腫です。経膈的に子宮を摘出すると、開腹手術と比較して侵襲が少なく、術後経過が良好です。しかし、未産婦さんは経膈操作が困難な例が多く、開腹することが多かったのですが、現在は腹腔内で子宮全摘のすべての操作を行えるようになり、未産婦でも腹腔鏡下子宮全摘が可能となりました。

表1は、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の5年生



図1 粘膜下子宮筋腫

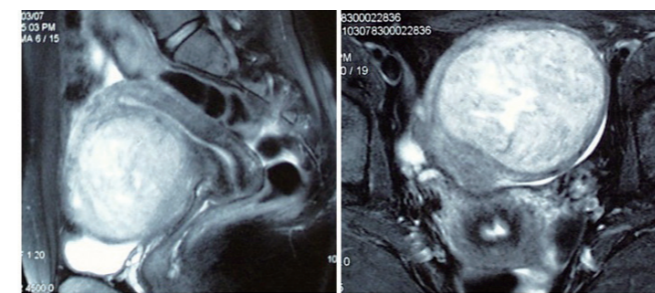


図2 未産婦の子宮筋腫

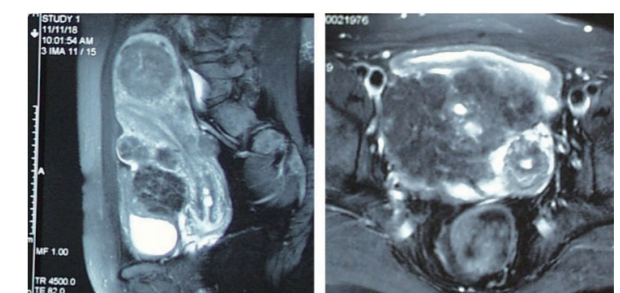


図3 未産婦の子宮頸部子宮筋腫

子宮頸癌	耳原総合病院 1997~2011	成人病センター 1987~1996	国立がんセンター 1997~1999	全 国 1992
I期	85.7	93.1	92.1	93.7
II期	83.3	70.6	69.8	72.2
III期	-	53.1	48.9	46.1
IV期	0	30.6	17.2	26.2

子宮体癌	耳原総合病院 1997~2011	成人病センター 1987~1996	国立がんセンター 1979~1996	全 国 1986
I期	93.1	94.5	92.5	78.2
II期	100.0	90.7	88.5	65.2
III期	42.8	76.0	70.2	33.3
IV期	-	25.0	16.7	16.7

卵巣癌	耳原総合病院 1997~2011	成人病センター 1987~1996	国立がんセンター 1980~1997	全 国
I期	100.0	95.3	83.3	-
II期	80.0	100.0	66.0	-
III期	42.3	35.8	24.0	-
IV期	8.0	13.9	9.0	-

表1 子宮頸癌・体癌・卵巣癌の5年生生存率